OPEN JAPAN
オープンジャパン

OPEN JAPAN 活動報告書 ～2020.3

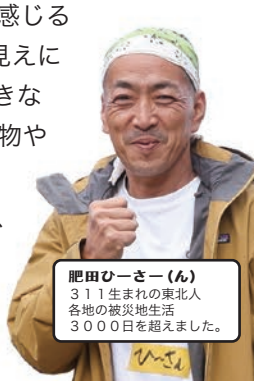
行動を伴う祈りは現状を変える
大きな力を持っている。
思いを胸に立ち上がれ。
ともに笑顔を作ろう。

OPEN JAPAN 代表理事
吉澤 武彦

緊急支援 2019

■「まさか自分が」「まさかこの地域が」各地で聞こえる「まさか」

まさかはある。備えあれば憂いなし。阪神淡路大震災から 25 年、神戸元気村をルーツとする OPEN JAPAN 緊急支援。ネットワーク型の緊急支援チーム。災害が起こると時期を見て人や物が集まってくる。技術や想いや志を持った仲間たちが各地から。人、中、間と書いて仲間、仲間の輪が広がる。思わぬ災害を目の当たりにした時、一人や家族、親戚では限界を感じる時もある。家屋の復旧方法も分からない。家屋にカビが生え、生活環境が厳しくなっていく事もある。先が見えにくい時、過去から学んだ経験や実例を混乱している災害地でできる事を、できる時に、できる手で、それは大きな手当や手助けになり、被災された地域が歩きだす一歩となる。自然災害に地球環境、少子高齢化、紛争、人や物や金などが短期間で移動する社会。自分たちの住んでいる地域を、地球を、みんなで考え動くことが求められている。憎しみや奪い合い、競争、搾取、争いがエスカレートして戦争という愚かなことを繰り返す時代から、分け合い、シェアし、助け合ったりすることで楽しく、気持ちよく、笑いあっていく社会へと歩いていきたい。この先の、その先の、笑顔のために。すべての人の心に花を。OPEN JAPAN、OPEN EARTH。みんな地球人。



肥田ひーさー（ん）
３１１生まれの東北人
各地の被災地生活
３０００日を超えました。

2018.7月

平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）2018/7/10～2019/6/12 @ 愛媛県西予市

2018 年の西日本豪雨発災後、11 か月間西予市野村に滞在し活動。後半は支えあいセンターの相談員として社協をサポート。水害にあった時の家屋のメンテナンスについての講習会などを行う。また仮設住宅のサロンを住民さん主体に行えるようにと長期的にサポート。

■ 支援活動 2019

2018

2019.4月

炭窯プロジェクト　2019/4/6～21 @北海道厚真町

北海道胆振東部地震で被害にあった伝統の厚真炭の炭窯を地域の伝統産業の再生プロジェクトとして復活させる。

2019.6月

山形県沖地震 2019/6/19～21 @山形県

JVOAD 先遣隊と連携して動く。現調の結果、地元の行政や社協に発災後のノウハウを提言する役割を担う。

2019

2019.9月

令和元年房総半島台風 (台風 15 号) 2019/9～@千葉県

危険木の処理や家屋の応急修理。ボラセン立ち上げサポート。JVOAD 技術委員として自衛隊へのシート貼り講習会コーディネート。

2019.8月

令和元年佐賀豪雨 2019/8/29～10/31@佐賀県大町町

水害と工場からの油の流出が重なった大町町。油の混ざった水、油の匂いが地区に漂う。油が家屋内外に付着しそれを除去するという対応は特殊だった。

2019.10月

令和元年東日本台風（台風19号）2019/10/12～継続中 (※2020/3 現在)
@宮城県丸森町　@長野県長野市　@茨城県大子町

年々台風が大型化していることもあり、東日本の広域が被災した。千曲川での人命救助を始め、長野県、宮城県、茨城県にて重機を使った緊急を要する案件や、ボランティアコーディネートなど人力による支援活動を行う。社協のボランティアセンター運営サポートも行いながら２０２０年３月現在も支援を継続中。

2020

西日本豪雨

緊急期以降も生活支援相談員として支援を継続

お世話になった駄菓子屋さんに手作り商品棚の贈り物

西予市を去るに当たり市より感謝状をいただく

炭窯プロジェクト

炭窯再生プロジェクト、厚真名産の灯は消えず

佐賀豪雨

住民さんと向き合って、「がばい」被害を一緒に越える

佐賀県大町町、漂う水と油に技術団体連携で取り組む

■ OPENJAPAN が「大事」にしていること

災害を目の前にする住民さんの気持ちが少しでも前を向けるようにと色々なツール（方法、手段）を駆使して住民さんをサポートしています。それは重機や人の力による土砂撤去、被災した家屋の家財撤去、床下泥出しから始まり、避難所支援、炊き出し、サロン活動（お茶会、物資のお届け、落語会、美容ボランティア、マッサージ、仮設の暮らし方講習会）など多角的なアプローチ方法となります。
色々な人たちが個々の技術や経験、得意分野を活かし住民さんに寄り添い関わっています。私たちが出来ることは応急処置でほんとうに僅かなことです。被災され落ち込んでいる心をちょっと後押し…。
また長期に渡りその町に滞在し、その土地で生活しながら支援を継続するため、住民さんたちと自然と同志のようになっていくのも OPEN JAPAN の特徴のひとつです。
その築いた関係がその地を離れてからも細く長く続き、次の災害の時には大きな力となって応援してくれています。

吉田直緒子（なお）
緊急支援に関わり５年。この春から保育士として乳児の養育の世界で働くことになりました。これまで出会った皆さんの支えに心から感謝して…。しばらく、行ってきまーす。

台風19号

長野県千曲川の堤防決壊、カヌーを使った人命救助

宮城県丸森町、町の一部と点在してかなりの山間部が土砂に埋もれる

宮城県石巻市にあるOPEN JAPANの事務所も浸水被害にあう

基本は現場、ミーティングの時間はとても貴重

大工さんが長期で活動に参加、家屋再生の心柱

長野、果てしない泥の撤去作業微力ではあっても無力ではない

茨城でも大子町を中心に活動、作業の他講習会も開催

台風15号

台風15号では千葉へ、巨大な倒木をとりのそいていく

行政・社協と連携し、情報共有しながら地域が動く仕組みを

丸森では山からの土砂、家に押し寄せた泥を切り離す

西日本豪雨（西予市、宇和島市）、北海道胆振東部地震（厚真町）、佐賀豪雨（大町町、多久市、小城市）、2019 年台風 19 号豪雨被害（丸森町）とわずか一年の間に４つの大きな災害に重機隊の一員として活動いたしました。
台風 19 号では地元角田市も被災しました。我家の数軒となりでは車がダメになる程の水害。そんな我家がOPEN JAPANの活動ベースになるとは思ってもみませんでした。発災直後からの丸森町での重機活動は今も続いています。まだ本格的に重機に乗り始めて１年、まだまだ勉強しなければならない事は山積みです。

しまさん
ボランティア活動は東日本大震災から。定年退職を機にダンプと重機を購入しOJ 重機隊の活動に長期ボラとして参加。

てっしー@手代千賀
宮城県生まれ宮城県育ちの宮城人です！ひよっこですが経験知識を生かして農になれるようふぁいとします◎

災害支援に長期に携わって、泥出しのガテン系作業から仮設住宅等への寄り添いの支え合いまで、被災した住人さんが復旧復興にどう向かっていくのか…間近で感じてきた一年でした。
佐賀での水害支援の最中に、私の地元宮城が台風 19 号の被害に遭い、佐賀でやり切りたい思いと、地元が気がかりすぎる思いとの葛藤の中、佐賀の住人の皆さんは会うたび心配し気遣ってくださいました。そして「私たちはもう大丈夫だから、宮城で頑張ってきて」と背中を押してくださった事が今でも忘れられません。

山形県沖地震

今まで培ってきた経験をもとに地元の行政、社協の方々と

避難所で野菜不足を補う「元気鍋」延べ１万食を提供

大町で KEEN カフェを開催、住民さんに靴と音楽とコーヒーをお届け

長野と丸森の仮設住宅で落語会、笑い声がこだまする

丸森町の子どもたちを新潟リフレッシュキャンプへご招待

「丸森元気食堂」を開催、おいしさと温かさは元気の源

西予、大町、丸森で美容ボラ、気分もさっぱり笑顔満開

北海道厚真の子どもたちに石巻の絵本を読み聞かせ

町役場や仮設等にともに春を待つチューリップの球根を

住宅復旧までの工程

災害により変わり果てた思い出いっぱいのお家。わたしたちがお手伝いする水害からの復旧作業内容の一例を紹介します。この作業により、業者不足となる災害時での工期短縮、経済的負担の軽減、カビによる健康被害の軽減を目指します。
初めての状況に呆然とし、この先ご自宅をどうするかの判断に戸惑う住人さん一人一人によりそいながら作業を進めていきます。

家主さんと相談しながら
作業内容を決めていきます

【 現場調査 】

住人さんと家屋をどこまで復旧するかなど作業方針を決めます。家族構成や避難状況により住人さんのペースに合わせて復旧します。

【 家財出し・家屋内泥出し・養生 】

被災した家屋から家具・畳等を出し、泥を出します。発災まで住んでいた大事なお家。思い出の家財や貴重品等の捜索もお手伝いします。家屋の無事な木材や床、サッシ等の汚損防止に段ボールやブルーシート等を使って覆います。

みんなで力を合わせて

濡れてしまった石膏
ボード壁をはがします

【 壁はがし・断熱材はがし・床板はがし 】

外壁には一般的に断熱材が入っており、水害では水を吸いあげます。石膏ボードも濡れると吸水してもろくなりカビの温床となります。除去する範囲を住人・業者さんと相談して濡れた壁・断熱材を撤去します。また、被災した状況に応じて床板をはがします。不必要な傷をつけずにはがし、板に番記するなど再利用にも備えて外します。

養生は丁寧に

再利用を考えて床をはがします

水分を含んだ断熱材を剥がします

床下のブラッシングも根気よく

【 床下断熱材撤去・床下土砂出し 】

断熱材は濡れると乾きにくく、時には数カ月間保水します。その状態で床板に接しているとカビや床材の劣化原因になるため住人･業者さんと確認し撤去します。床下に土砂が入り、柱や木材に付着している場合、在宅避難で生活されているお宅では無理に床をはがず、床下収納の点検口等からもぐり床下の土砂を撤去します。

床下の土砂を撤去します

壁の中もブラッシング

【 ブラッシング・乾燥 】

木材に付着した泥水などの汚れをブラシ等でこすり落とします。細かい作業ですが、床板等についた汚れをそのままにしておくと、新しい畳を入れたときに歩き回ると砂ぼこりが舞う原因になるので、細部まで根気よく落としていきます。
カビの対策で一番重要なことは乾燥です。ダクトファンや静音サーキュレーターを使い床下等の乾燥を促します。期間は季節や立地により１～２か月程かかります。

乾燥は時間をかけて

【 仮床張り 】

床板の痛みが激しく再生不可能なお宅で荷物を移動したり、足場・導線を確保したいときにコンパネ等を使い仮の床を張り安全に作業を行います。在宅避難している方のお宅では生活導線の確保も行います。

【 消毒 】

建材のブラッシング作業や乾燥が十分に済んだら家屋の柱や家財を濡れた位置まで噴霧して消毒します。消毒には一般的に塩化ベンザルコニウム（通称オスバン）水溶液を用います。

水に浸かった箇所を消毒

床下も消毒

ご家族が過ごしてきたお家にお邪魔して一緒に再建へと向かっていく。家や地域の話、時には一緒に笑って泣いて。見ている先は泥ではなく、住人さんのその先の笑顔のために。

仮床を張れば生活できるように

家主さんと一緒に休憩時間

■ 支援団体やボランティアがすべての家を手がけることはできない。

気候変動､地球活動期といわれている昨今､大型化する台風、くすぶる火山、集中豪雨、地震など、自然災害は大規模化、広域化しています。広域災害においては、支援団体やボランティアがすべての家を手がけることはできません。より多くの方々がより良き方向へ進むには、被災された方々もそのノウハウを覚えていただき、それを周りに広げていくことも必要であると私たちは考えています。OPEN JAPAN は、実際に被害に遭われた方々を対象に避難所にて講習会を開いたり、自衛隊員に対しても屋根上作業前の安全管理、作業工程講習会を開催しています。また、日本財団と連携し、復旧時に必要な資機材を住民さんへ貸し出す支援にも取り組んでいます。さらなる災害を目の前にした今、私たちは現場での講習会を通し、被災された方々を中心に地元主体（社会福祉協議会、地元NPO、町内会）それぞれが連携して課題解決に取り組むサポートを行なっていきたいと考えています。

避難所での講習会の様子

ジョッキー
災害支援に携わって早8年になりますが、被災した方々に寄り添う難しさを日々痛感しています。これからも少しずつ、成長して行こうと奮闘中です。

台風 19 号の被害に遭われた色々な被災地で支援活動する中、家屋に流れ込んだ土の量が比較的少なかった地域では、町の復旧への姿勢が過去に活動した被災地とは異なる印象を受けました。消石灰を撒き復旧としてしまっているお宅、１ヶ月以上も茶箪笥の中に水が溜まった状態のお宅など…。このままではいけないと思い、乾燥の仕方や消毒の重要性などを伝える講習会を複数回開催いたしました。
また、損壊が少ないため早くに住宅へ戻られた方々も多く、住まわれている状態での復旧作業という、今まで経験のない復旧方法にも試行錯誤しながら取り組んでいます。

水害からの復旧講習会の様子
（実際に被害に遭われた家屋にて）

オープンジャパン緊急支援のこれから

- 日本の民間災害支援チームの雛型を作る。
- 災害に対応できる人間力や地域力の育成、法律や制度の仕組みづくりを目指して、災害から見える社会の課題を意識し、考え、動き、繋げる活動を進めていく。
- 現場スキルやコーディネーション、ノウハウを高め、伝え、広める活動としての講習会開催を更に増やしていく。
- 防災キャンプ場の開催。
- 宮城で、東北で災害対応力の底上げを図っていく。
- 情報発信の整理を通し、ノウハウの提供をしていく。

■ 2019年度の主な支援活動内容

（西日本豪雨・胆振東部地震・山形県沖地震・佐賀豪雨・台風15号・台風19号）

●全体　（現地調査、ベース設営・運営、自治体・社会福祉協議会との連携、ボランティアセンター運営サポート、サテライト運営、ニーズ調査、テクニカルニーズの対応、ボランティアの受け入れおよびコーディネート、支援物資の呼びかけと配布および管理、避難所へ元気鍋約１万食の提供・在宅者向け炊き出し、KEEN カフェ等企業によるイベントおよび物資配布、仮設住宅の引越し支援・各種サロン系イベントの開催およびコーディネート、技術系団体の連携および活動、国・行政・社協・企業・支援団体との連携による災害対応および各種提言等）
●各種講習会の開催　（避難所にて「水害にあったときに」の講習会開催、家屋復旧・引越し・消毒、仮設住宅内棚づくり、自衛隊屋根作業前安全管理、重機・チェーンソー講習会等の実施およびコーディネート）
●重機系　（土砂搬出・撤去、盛り土、整地、車の曳き出し、流木撤去、私道や敷地内道路の応急補修、道路啓開作業、家庭菜園の再生サポート、のり面ブルーシート張り等）
●大工系　（家屋内外の土砂・泥出し・床板はがしおよび復旧、床下泥出し、家財搬出、水抜き、内壁・外壁はがし、断熱材除去、消毒、仮設住宅棚作り、仮床・仮壁張り等）
●コミュニティ支援　（神社復旧、景観再生、水路復旧、農地再生支援、社協との連携による見回り、生活支援相談員派遣、子ども保養プロジェクト等）

■ 活動実績

大工系家屋内作業	1573 件
大工系家屋外作業	491 件
地域ニーズ	236 件
重機・チェーンソー案件	257 件
サロン・炊き出し	106 件
現地調査・訪問	319 件

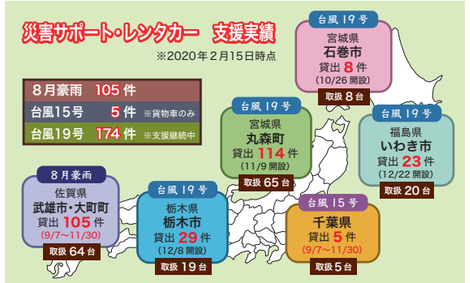
●活動人数：5,292人 (OPEN JAPAN連携)
2019年4月～2020年2月24日時点

OPEN JAPAN
緊急支援プロジェクト
facebook ページ

■ 緊急時のカーシェアリング支援

車を貸出している様子

丸森町災害ボランティア
センター内に設置されたブース



カーシェアリングプロジェクトの災害支援は、寄付で車を集めて被災された方や支援団体に一定期間無料で貸し出す活動です。今年度も多くの方々のご協力の下、車を失い途方に暮れた方々などへ車を届けることができました。私達には「2025年までに東日本大震災規模の災害が起こっても対応できる体制を作る」という目標があります。今年は立て続けに起こる災害への対応で人手も車も不足し、更に台風19号の時は石巻の事務所自体も被災するという苦しい状況となりました。しかし、一つでも多くの笑顔を作るために、目標に向けて私たち自身も前に進むためにも同時期に複数拠点（石巻・丸森・栃木・いわき）での支援という私たちにとって新しい挑戦を行い、それぞれの地域で被災された方々へ車を届けることができました。

今年は災害の時に返却することを約束の元、安く利用いただく「災害時返却カーリース」を始めたり、車をプールできる場所を各地に確保することで、発災後、車がスピーディに現地へ集まる仕組み作りを進めます。今年も具体的に一歩前に進めてまいります。

吉澤 タケ
OPEN JAPANと日本カーシェアリング協会の代表理事。メンバーで唯一石巻のベースに常駐しています。

〜　OPEN JAPAN と共に時間を過ごした方々の声　〜

「私に何か出来ることがあるのかな」そんな不安とスタートした丸森での活動。みなさんの力を借り、私なりに住民の方々に寄り添った時間はかけがえないもの。あの時、一歩を踏み出して本当に良かった。（あーちゃん　@宮城県）

北海道胆振東部地震で支援してもらったOPEN JAPAN。発災初動での重機隊の必要性は、障害物を避けたり、家財を救出するだけでは無く被災された方々の心の立ち直りを作る大きなキッカケとなることを身を持って知ることができました。お互い様・思いやり・寄り添い。忘れていた日本人らしさを思い出させてくれる経験です。（くまさん　@北海道）

「自分にできることを」「自分が関わる人にこの経験を還元したい」と思い、ボランティアを続けてきましたが、OPEN JAPANで活動し、目前の辛い現実から逃れるための手伝いではなく、例え短期間であってもその先を見据えたサポートをという思いを共有できる素敵な仲間と活動できる喜びもできました。（みほさん　@岐阜県）

親ほど歳が離れた大人たちと数ヶ月寝食を共にし、復興のお手伝いができた経験は大きな学びでした。昨年の佐賀豪雨で初めて目にした復興支援という大きな志を共にする沢山の仲間がいるこの団体は、私にはとても羨ましく、その仲間に加わりたいと思いました。（かずあきさん　@岡山県）

西日本豪雨で活躍した元気村の車を丸森でも使って頂き、その都度の支援物資、カンパは常総の被災者、住民のご協力の賜物です。「362日野菜売り」地元農民の生活と生甲斐作りがライフワーク。細々でも後方支援できることに感謝です。「共に生きましょう！」（農産物直売所「元気村」ボチさん　@茨城県）

西予市野村町　大麦ファミリー

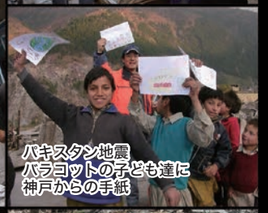
西日本豪雨災害でみなさんと出会いました。最初は誰も知らない小さな田舎町を支えてくださることが信じられず、年寄りには「詐欺じゃないのか」と言う人までもいました。
でも、みなさんはフル活動で助けてくれました。本当に貴重な体験でした。みなさんの愛情を感じ、そのもらった愛情を次につなぐことを学びました。支援がなければ乗り越えられないことばかりで耐えられなかったと思います。
一生忘れられない、忘れてはいけないみなさんの思いを家族で大事にしていきます。こんな小さな町にいるのに、全国に友達ができたようで幸せです。本当にありがとうございました。

佐賀県大町町社会福祉協議会　吉田晃佑さん

令和元年８月２８日、九州北部豪雨発生。大町町では工業油の流出もあり、今までと違う災害でした。当初から多くの団体が支援してくださいましたが、みなさんの存在は突出していました。油の流出地区で被災された住民さんが、どうしてよいのか呆然とする中、みなさんが優しく親身に接し、油の流出地区にサテライトを立ち上げ、一般のボランティアでは出来ない作業に当たっていただきました。この災害を受け、行政、社協、CSO（市民社会組織）連携の大事さを実感しました。行政ではできないこと、社協でもできないことをCSOはできます。
みなさんが大町に来てくれたから、ここまで復興が進んでいます。平常時からもっと三者が顔を合わせ、さらなる連携が出来ればと思います。

四川省地震
都江堰で広東省救助隊と共に

中越地震山間部での
貴重品掘り出し作業


パキスタン地震
バラコットの子ども達に
神戸からの手紙

パキスタン地震
貴重品掘り出し（協力　マキタ）

熊本地震
トラクターレスキュー

■ 次の災害発生は「今日」なのかも知れない・・・・・

「ボランティア元年」と言われた２５年前の地震では、全国からの支援が神戸周辺に集まった。現地の情報収集してから行くのでは無く、まず現地に入ってから何が必要なのか、現場から情報発信する側に立って活動することが重要だった。
今のようなボランティアセンターが機能していない現場で、様々なノウハウや活動をボランティアが創りあげて行った。その後、９７年ナホトカ号日本海重油流出事故（NHK プロジェクト X でも特集）や99年台湾大地震、鳥取西部地震、０４年中越地震等では、そのノウハウが活かされた。
「０から１を創る・・・」この言葉を仲間達は使った。災害前の様々なマニュアルが機能しない中、創るしかなかった。
２０１１年３月11日の災害、その仲間達が東北に集まり、未曾有の地震、津波災害からの復旧・復興に全力で向かった。
そして、その後発生した様々な地震や台風、豪雨、豪雪災害に出動し今の活動に繋がっていった。常に次の災害発生は「今日」なのかも知れないを心に・・・

吉村 誠司（助さん）
OPEN JAPAN 理事・ヒューマンシールド神戸代表・長野県森林整備技術者・１９８５年フィリピンの台風災害で初出動、８８年インドで荷物を盗まれ人生が変わる。下手な手品師。

阪神淡路大震災から２５年、そして今へ

大量の冷やご飯をチャーハンに…

神戸の街は破滅的に

神戸元気村発足当初の風景

カヌーで咲かせる華

東日本大震災の炊き出し風景　総炊き出し数 111,165食

2001 レインボーフラッグ
12日間かけて荒川を源流から河口まで。BOWさんと…

■ 神戸元気村からの OPENJAPAN、そして四万十塾。

カヌーからはじまったのである…。信州美麻遊学舎、エコビレッジにて、電気、ガス、水道のない山小屋でシンプルに暮らす。阪神淡路大震災発生後、カヌー、オゾン層保護活動、環境保護団体を基盤に神戸元気村の発足に従事する。沢山のプロジェクトを立ち上げ実行する、神戸元気村のフェイズはやがて、2000 年発足の OPEN JAPAN へとシフトしつつ、活動を続ける。四万十塾は、そのプロジェクトの一つとして生まれた。
カヌーを使った環境文化事業を目的として、川と人々の生活が深く混じり合う、ダムのない最後の清流の四万十川を拠点に設立をする。カヌートレッキング、当時はまだ日本にはしたしみのない文化であった。川旅を通じてシンプルなライフスタイルの提案する。
卒業した者は、新たにプロジェクトを立ち上げ、全国各地でにて活動をし、今も尚つながりを持ち関わり合っている。様々な活動やピースムーブメント等を共に活動してきたのである。
「OPEN JAPAN」のネーミングはオープンセサミ『ひらけ ごま』から名づけられました。いわば、この先の世界を新しく切り開く人たちの新天地を意味しています。カヌーは、宇宙船なのです。さらなる輪が広がり、素晴らしい世界に共に進んでいきましょう。

木村 とーる
1995年設立四万十塾塾長・オープンジャパン理事。四季を通してカヌーで最小限の生活道具を積み込み川旅している。飛び豆ツアーでは、全国の川を神出鬼没に飛び回る。著書に『焚き火料理塾』エイ出版発刊

カーシェアリングプロジェクト

カーシェアリングプロジェクトは、寄付車を使って支え合いを作る活動をしています。本冊子６ページにある災害支援活動に加えて高齢者の外出支援や乗り合いでのおでかけ等の活動を車をシェアしながら地域で運営する『コミュニティ・カーシェアリング』(以下CCS)、車で生活困窮者支援や地域おこしを行う『ソーシャル・カーサポート』といった活動を行っています。

近況の報告としましては・・・

CCSは、前回の報告から 100 人以上会員が増え、石巻だけで約 400 人（平均年齢 75 歳）となり、実施する地域も 10 地域となりました。更に、高齢化や移動に課題を抱える様々な地域から相談を受け、新たに福島・滋賀・鳥取等でも活動が始まりました。毎月全国各地から視察に来ていただけるようになり、この輪は益々広がりをみせることになりそうです。

『ソーシャル・カーサポート』は、人口約 400 人の石巻の網地島で地元のNPOと協働で島を訪れる方のためのカーシェアの運営を始めました。これは、商業レンタカーが成り立たない地域等に、人を訪れやすくする試みとして今後他の地域にも展開していく予定です。震災遺構へ訪問する方は割引されるレンタカーや石巻の魅力を音声でガイドするナビシステム「観光ナビ」の導入も始まりました。自立支援の専門家と連携の元、生活困窮者へ車を格安で貸し出し生活再建を促す取り組みも今、準備を進めております。

あと、持続可能な体制をつくるために全国各地の自動車パーツのリサイクル企業とタイアップして、動かない車でも無料で引き取り、更に買取価格がこの取組への寄付になる「リサイクル寄付」をはじめました。

東日本大震災後に石巻に生まれ、取り組みを続けてきたこの活動が、石巻以外の地域へ広がり始めたことを受け、私たちは、2025 年までに達成する 3 つの目標を新たに掲げました。

1. **CCS を導入したいと思った地域が気軽にチャレンジできる環境を作る。**
2. **日本中どこでも寄付車が集まり、各地の非営利活動でそれらを活用できるようにする。**
3. **東日本大震災規模の災害が起こった時でも対応できる体制を作る。**

この目標をきっちり実現し、災害多発・超高齢化時代に石巻から具体的な解決策を示してけるように、取り組んでまいります。

いろいろ募集しています！ お電話やメールでも受け付けております。

- **車の寄付**（動かない車も歓迎）
- **カーシェア・ピットクルー**（応援団）
- **有給スタッフ・ボランティア・プロボノ**

CCSでは平均して２カ月おきに「お出かけ」に出かけます。

持続可能な支え合い体制づくりを目指しCCS実施地域毎に企業スポンサーの募集を開始しました。（スポンサーと利用者）

CCS視察の様子（鳥取から20名お越しいただいだ時）

CCSで乗り合う車の中ではいつもわいわい盛り上がります。

滋賀県大津市CCS普及促進に関する協定を締結しました。

リサイクル企業との連携締結式の様子（茨城県のカーレボ㈱）

日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association
宮城県石巻市駅前通り一丁目５番２３号
tel：0225-22-1453
e-mail ： info@japan-csa.org
営業時間　9:00〜18:00（お盆と年末年始は休み）
https://www.japan-csa.org
HPがリニューアルしました。
（4分間の活動紹介動画もぜひご覧ください）

写真展「その先の笑顔のために」

日頃から活動を支援してくださる日本財団。今回ご提案をいただき 6月27日〜 7月16日に日本財団ビルにて写真展「その先の笑顔のために」を開きました。記録ボラとして OPEN JAPAN に参加するフォトグラファーが2018年に愛媛県西予市、北海道厚真町等で撮影した写真を展示、多くの方が来場しました。「住人やボランティアの表情から現地の様子が見える写真だった」「財団が支援する活動の内容が写真でよくわかった」という感想をいただきました。

災害時の重機の必要性、平時の育成講習

OPEN JAPAN 緊急支援プロジェクトでは、長く重機を使用しての災害支援を展開して来ましたが、近年は連携する行政及び社協さんから、重機を使用する案件として、認知して頂けるようになりました。川の決壊により土砂や流木等で家屋の周りが埋もれてしまった住民さんが、まず玄関先までたどり着けるように土砂や流木の撤去などをする緊急時をはじめ、山間部の居住区を中心に土砂災害に見舞われた家屋の裏手から土砂の撤去をする復旧期、そして地震災害では倒壊家屋からの貴重品取り出しなど、重機の必要性は高いと実感しています。

そうした災害時における重機の使用をはじめ、チェンソーや大工などの技術系ボランティアの育成も必要と考え、更なる災害に対応する為、OPEN JAPANでは他団体と協力し定期的な講習会等を開催しています。

萬代 好伸（ばんちゃん）
石巻生まれの石巻育ち。津波から難を逃れ、九死に一生を得る。全力で命を守る事を伝える”命の伝道師”。

講習会で取り上げている主な内容
- 重機など機械類の必要性と危険性の座学
- 実技によって機械類の危険性の把握
- 様々な作業に応じたアタッチメントの交換方法
- 重機、チェンソーなど機械類のメンテナンス

古民家再生 IBUKI プロジェクト

古民家再生 IBUKI プロジェクトは建屋の完成を一旦の区切りとし、運営を『株式会社 IBUKI』に移行しました。今は諸事情により休止しておりますが、無事に終了した「古民家の再生」の次は「地元にコミュニティスペース」と「地域に根付くビジネスを地域の人たちで」を実現できるよう動いていきます。準備が整いますまで今しばらくお待ちください。

プロジェクトの報告に関してはこちらのページ内にある報告書をご覧ください。

アースフォレストムーヴメント

森からのたくさんの恵みに、ありがとう☆彡　淀川水系の下流域に住む私は、上流のびわ湖で小さな森づくりを始めました。今年はいよいよ植樹を開始。さぁ、どんな未来になるのでしょうか。植樹の方法は「自然配植」。自然のもつ多様な力をうまく生かしたこの技術は、とてもきめ細やかで、奥深いものです。毎年３月に植樹、１０月に森のお手入れ。みなさんもぜひ森づくりを体験しに、三井寺「みんなの森」にお越しください〜☆ ^ ^

詳しくはWEBサイトをご覧ください→

松田 卓也
「自然配植」による森林再生担当
三井寺「みんなの森」共同代表
母の日にマザーアースデイを実施

OJコラム　生きる　第三回　僕はねぇ・・・

『あんな楽しそうな、お母さん初めて見た！』少し寒くなった頃に届いたお手紙に書かれた喜びが写し出された文字が嬉しかった。そっか、そっか、うん、うん♪

初めてのお母さんとの旅行だったんだね。初めてお母さんと２人過ごした２日間だったんだね。お母さんとの初めての旅行がキャンプだったわけで、一緒にテントを建てたり、寝袋広げたり、うんうんよかったね。木にも登ったし、こねこねしたパンにソーセージ挟んで焼いたっけね。チョビっと焦げたけど（笑）

少し大きくなったのかな、ズボンきつくて山登りちょっと辛かったね。ズボンがキツかった事、お母さんのせいにしちゃったけれど、後でちょっと後悔してた事、おじちゃんは知ってるよ。ゴメンねは言えなかったけれど、帰りのバスの中撮った写真には、ニコニコの２人の笑顔が写ってたの見たよ。おじちゃんは気になってたんだけど、ホッとしたよ“うん”

『がってん、あのね…何でもない』…何だったんだろう、でも、何だか嬉しかったよ。お山の上から見た、ポカポカ雲をまた見に行こうね。それとも水平線の先を探しに海に行ってみようかね。

がってん
しまなみの島々（今治市）から、生きるをテーマにする野外活動家、旅人。海で川で山で若い世代の遺伝子のスイッチを入れまくる人。旅人→猟師→リバーガイド→ガイド会社経営→野外教育を通じた人材育成→FC 今治（J リーグクラブ）の『しまなみ野外学校』にて活動

福島からあなたへ・・・　第三回

地球に住む人はみな地球人？人類とは地球人のことをいうのでしょうか？

朝日が昇り今日がはじまり、月が満ち欠けひと月が経ちます。一年が過ぎ季節はまた巡りますが、同じ日は二度と訪れることはありません。私たちは過去でも未来でもなく、今にいるのです。気候が変われば暮らし方も変わり、台風など災害に遭えば人生が変わります。きっかけがあって生き方を変えざるを得ないこともありますが、逆に生き方を変えることで世の中を変えることができるかもしれません。

山があれば水を蓄えてくれます。木を薪にすれば暖をとり食事を作ることができます。土があれば作物を育てることができ、また土の中には鉱物があり、形を変えて道具とすることができます。私たちは地球の営みを知り、学ぶことによりどんな状況でも生きることができます。災害時においても、誰かが助けてくれるのを待つだけでなく、自ら地球の力を借りて生き延びる手立てを持つことができるのです。

福島には変えられない過去があります。わたしたちは学ぶための過去として振り返ることができます。過ちは二度と繰り返しませんからとの願いを込めて。

今日飲む水はどこから来てどこへ行くのか、今食べたものはどこから来てどこへ行くのか。地球は限りない資源ではなく、生きている惑星です。環境破壊を止めるためには、今何をするのかという選択をし続けることだと実感しています。災害も戦争も貧困も、今の生き方の延長線上に存在しているのですから。私たちは過去にも未来にも行けません。Be Here Now、いまここに在れ、それが真実です。

鈴木 よし子
月の暦の製作・出版、暦の話会を主軸に活動。山の中で陰陽五行思想を感じながら暮らす。「自覚して生きる」が今年のテーマ。『月とカヌー』

山から水を引きます。

山の水と薪で火を焚けばお風呂に入れます。

火を焚いて暖をとり、料理も作れます。

自生したクレソン。食べ物は大地からいただくことができます。

色々な方々のご支援と共に

災害が多発した2019年、北海道から四国まで四季を通じての活動となりました。発災のたびに何も言わずご支援いただくパタゴニア日本支社、今年もマッチングペイを行い、社長はじめ活動に参加されるキーン・ジャパン、ベース運営や炊き出しに不可欠なアウトドアギアを提供いただくコールマンジャパンなど支援企業皆様のおかげで迅速に、そして長期的に支援に集中できています。

三井住友フィナンシャルグループサステナビリティ推進室の皆様も各地でボランティアに参加。佐賀ではANAエアサービス佐賀の皆様が社長を筆頭に幾度も地元のために活動されました。CSRやSDGsという社会的成長から企業のパーパス（存在意義）が注目される昨今、災害と積極的に向き合う皆様とより連携、協働し災害に強い社会づくりに取り組んでいきます。

DRT JAPAN

IVUSA

コンセント

援人

北海道災害技術系ネットワーク

災害NGO旅商人

災害NGO結

スマイルシード

日本財団

OPEN JAPANの仲間たち

現場を共にした仲間たちと連携を行いながら各プロジェクトに取り組んでいます。（2019年度）

株式会社アクティブサポート
厚真町災害ボランティアセンター
石狩思いやりの心届け隊
石巻おっさん倶楽部（IOC）
全国哥麿会
日本笑顔プロジェクト
縁の下のもぐら
株式会社小倉工務店
おもやいボランティアセンター
風組関東
カフェデモンクえりも
カリタスジャパン
キーン・ジャパン合同会社
日本キャタピラー合同会社
北の国サポートチーム
グリーンコープ
コールマンジャパン株式会社
コマツ山形
藤岡災害ボランティアサークル
神戸大学学生震災救援隊
NPO法人国際ボランティア学会協会（IVUSA）
国士舘大学 防災・救急救助総合研究所
一般社団法人 国際健美軸協会
災害 NGO 旅商人
災害 NGO ぬち
災害 NGO 結
災害支援信濃町連絡会
佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）
澤田奉賛会
真言宗御室派青年教師会
真言宗神奈川青年教師会
NPO 法人スマイルシード
公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）
世界平和統一家庭連合 平和ボランティア隊（Upeace）
仙台 FBVC
一般社団法人ソルファクション
一般社団法人ダッシュ隊大阪
ダッシュ隊徳島
チーム茨木
チーム北九州
チームK（ボランティア団体 Team-K）
チーム SHIRO
チーム新津
チーム松本
チーム八ヶ岳
中央大学ボランティアセンター
ちょんまげ支援隊
東京消防庁ボランティア部会
東北砕石株式会社
東北大学学生有志
高野山真言宗横浜徳恩寺
公益財団法人　日本財団
日本財団学生ボランティアセンター（GAKUVO）
日本モーターボート選手会
西東京臨済会災害支援部「臨坊」
杷木復興支援ベース
パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社
被災地に学ぶ会
ひのきしん隊
一般社団法人フェニックス災害支援機構 フェニックス救援隊
NPO 法人北海道 NPO センター
北海道災害技術系ネットワーク
NPO法人ホップ障害者地域生活支援センター
ボランティアチーム援人
株式会社マルモリ
丸森 tree tree tree
丸森屋台プロジェクト
三井住友フィナンシャルグループ サステナビリティ推進室
南浜ひまわりプロジェクト
宮城県石巻市NPOしらうめ＆宮城県第12教区青年会
公益社団法人 みらいサポート石巻
モトローラ・ソリューションズ株式会社
山部
山元町おてら災害ボランティアセンター（テラセン）
勇気野菜プロジェクト
公益社団法人落語芸術協会
チーム酪農学園大
NPO法人リエラ
特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）
Adventure Vacation Network
株式会社ANAエアサービス佐賀
一般社団法人 BIG UP 石巻
BORDERLESS FIRE
特定非営利活動法人 CONCENT
DEF 東京
DRT JAPAN
LITTLE TWITTER COFFEE
NPO法人 BOND & JUSTICE
NPO法人 SEEDS OF HOPE
国際 NGO　OBJ
TEAM NORTH　他
（五十音順）

東日本大震災以降のオープンジャパンの活動

2011年（平成23年）
3月 東日本大震災（宮城県石巻市、他）
7月 新潟・福島豪雨（福島県金山町）
9月 紀伊半島豪雨（和歌山県那智勝浦町、他）

2012年（平成24年）
5月 つくば市竜巻被害（茨城県つくば市）
7月 九州北部豪雨（熊本県阿蘇市・南阿蘇村、他）

2013年（平成25年）
8月 岩手県央豪雨（岩手県雫石町）
10月 台風26号土砂災害（伊豆大島）
11月 フィリピン台風被害（レイテ島、他）

2014年（平成26年）
2月 豪雪被害（埼玉県秩父市・山梨県）
8月 広島土砂災害（広島県広島市）
11月 神城断層地震（長野県白馬村）

2015年（平成27年）
4月 ネパール大地震（ラップラック村・ブンガマティ村）
9月 関東・東北豪雨（栃木県鹿沼市・茨城県常総市）

2016年（平成28年）
4月 熊本地震（熊本県南阿蘇村・西原村・益城町、熊本市・阿蘇市、他）
8月 台風10号大雨被害（北海道南富良野町、岩手県岩泉町）

2017年（平成29年）
7月 九州北部豪雨（福岡県東峰村・朝倉市、他）

2018年（平成30年）
5月 秋田市水害（秋田県秋田市）
6月 大阪府北部地震（大阪府茨木市、高槻市）
7月 西日本豪雨（愛媛県西予市・宇和島市、広島県広島市、呉市、坂町、岡山県笠岡市、真備町、他）
9月 北海道胆振東部地震（北海道厚真町、むかわ町）

2019年（令和元年）
6月 山形県沖地震（山形県鶴岡市）
8月 佐賀豪雨（佐賀県大町町、他）
9月 台風15号災害（千葉県鴨川市、他）
10月 台風19号災害（長野県長野市、宮城県丸森町、茨城県大子町、他）

2018年7月8日の朝、小雨降る中で呆然と

我が町は湖となる

■ 水害から１年、今思う事・・・。

災害現地で活動するOPEN JAPANのみんなにエールと感謝を送ります。18年7月の西日本豪雨。真備町から西に10キロほどにある、私の住む笠岡市北川地区でも小さな河川が決壊し５キロ周囲が最深２ｍの湖となり、生まれて初めての床上浸水を体験しました。水が引いて１年半経った今、うず高いゴミの山はなくなり、ある家は消え、ある家は新しくなり、一見すると水害前と同じような風景ですが、被災した方々の中には、また同じことが起こるのではとずっと不安を抱えている方も少なくなく、差はあれど以前とは同じにはなれない人々の暮らしがあります。

私にとっては、日々の物事にかまける中で各地で起こる災害の知らせを聞き、自分なりにですが、以前よりも被災された方々の心中を思い計ることができるようになったことは、水害体験のおかげと思っていて、遠くの出来事も自分のこととして受けとめることが、もっとできるようになれればと思うこの頃です。

中村 俊一

'54 年広島市生まれ。'94 年山田和尚と出会い、翌年の阪神大震災で神戸元気村に参加し以降様々な活動を共にする。'03 年「薬効手染」「衣は大薬」を掲げアルデバランを設立。現在に至る。

■ 水の祈り　毎年8月5日、広島にて水のことを考える時間を過ごしています

毎年8月5日夕方、原爆ドーム近くの広場（通称ポップラ）にて、全国から気持ちの良い水を持ち寄り、それを合わせて太田川に献水しています。太田川を通して地球の隅々へと繋がる水に気持ち良さが伝わるイメージをする、そんな時間を過ごしています。ぜひ皆様もご自身の住む地域のきれいな水をお持ちになって広島にいらしてください。また、6日の広島平和記念日には OPEN JAPAN のメンバーがカヌーに乗って原爆ドーム前で行われる灯籠流しをサポートしています。

広島でお水合わせ「水の祈り」→

■ バウの道中記　～『チベットの死者の書』49日間の物語～

「輪廻転生の世界観を自分の中に標準装備すれば生き方が変わる」と、OPEN JAPAN 創設者のバウさんはよく話されてました。この物語には死後49日間にバウさんの魂が体験する世界が描かれています。ご自身の分と合わせて大切な人へも渡してあげてください。お申込みは電話かメールで。

◎A5サイズ　300円（送料別）

OPEN JAPANよりご支援のお願い

OPEN JAPANの活動は皆様からのご支援によって成り立っています。災害発生時、初動の緊急支援ではベースの立ち上げや、活動に必要な機材の運搬や燃料など、全て皆様の気持ちが形となり被災された方々への支援と繋がっています。

また、地域の方々が安心できる関係性を大切にし、今、何が必要とされているかを常に考え、臨機応変に各被災地で活動を続けています。こうした全ての活動の源となるOPEN JAPANの活動費へのご支援を是非よろしくお願い致します。

▼ ゆうちょ銀行 → ゆうちょ銀行 の場合
□座記号番号　02250-5-126661
□座名称　一般社団法人 OPEN JAPAN
□座名称　シヤ）オープン　ジャパン

▼ 他銀行 → ゆうちょ銀行 の場合
店名(店番) 二〇九(ニニキユウ)店(229)
預金種目　当座
□座番号　0126661

仮想通貨でのご寄付も受け付けております。

仮想通貨でのご寄付も受けられるようになりました。ご自身のビットコインウォレットから右記QRコードを読み取ると寄付ページに進みます。

※ビットコイン以外でも BCH、ETH、LTC、XRP でも受け付けております。詳しくはお問い合わせください。

ビットコインの受金 QR コード

マンスリー・OJサポーターを募集しています

みなさまからのご支援が災害時の早さに繋がります！

マンスリー・OJサポーターは毎月定額の寄付で、継続的にOPEN JAPANの取組をサポートいただける仕組みです。お支払方法はクレジッカードと口座振替をお選びいただけます。（月額1,000円～）詳しい内容、お申し込みはOPEN JAPAN のWEBサイト内サポーター募集ページ（右のQRコード）をご覧ください。

一般社団法人 OPEN JAPAN の決算報告は、WEB サイトよりご覧ください。　www.openjapan.net/calendar/houkoku

編集後記

江戸時代。1日の生活は、朝食後に自らの生活のためにお金を稼ぎ、昼過ぎからは自分ができることで、傍（はた・近くの他人）を楽にする事をしていました。子ども達と遊びながら道徳を教えたり、ご近所さんの家の壊れた部分を直したり…そうボランティア活動、これが「はたらく」です。今年もこの報告書には「はたらく」人たちが詰まっています。本当にまともな人たち、この冊子を手にするあなたもその1人。このまともな人たちが「普通の人」と呼ばれる世界になるまで、今日もそれぞれの場所で働きましょう。

鈴木 匠
OJいろいろ係
「月とカヌー」

OPEN JAPAN オープンジャパン

一般社団法人OPEN JAPAN オープンジャパン
〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り1丁目5-23　Tel&Fax：0225-92-7820
E-Mail：info@openjapan.net　URL：www.openjapan.net

編集・デザイン
月とカヌー

構成団体：一般社団法人日本カーシェアリング協会・株式会社IBUKI・ヒューマンシールド神戸・四万十塾・わっか・月とカヌー・有限会社アルデバラン